

カキ炭疽病情報第1号

令和元年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

カキ炭疽病の発生に注意しましょう！

1 発生状況

8月下旬に県内22ほ場で行った巡回調査において、発病果率が0.14%（平年0.05%、前年0.00%）で、**過去10年と比較して2番目に高い状況です**。昨年秋の発生量が多く伝染源量が多かったことや、8月中旬に台風10号の通過があったことが要因だと考えられます。

2 本病の生態等

- (1) 本病は、枝や果実の病斑（図）上に形成された胞子が降雨のたびに飛散し、感染が広がります。本病の胞子は、ゼラチン様の物質で覆われているため、風による飛散は少なく、主に雨水の跳ね返りなどの水滴の飛散によって伝搬されます。
- (2) これから10月までの気温は、胞子の発芽適温である25℃前後で推移するため、この時期に降雨が多いと果実での被害が多くなります。特に、台風が通過すると感染が拡大するため、今後の気象予報に注意しましょう。



図 発病果実

3 防除対策

- (1) ほ場内をよく観察し、**発病枝や発病果実は見つけ次第除去しましょう**。前年に本病の発生が確認されたほ場は、特に注意しましょう。
- (2) 収穫前日数に注意し、表を参考に防除を実施しましょう。特に、台風が接近する場合は事前に散布し、できなかった場合も台風通過後、速やかに散布しましょう。
- (3) 他県では、QoI剤（FRACコード：11）やベンゾイミダゾール系（FRACコード：1）の耐性菌が確認された事例もあるため、同一のFRACコードの農薬は連用しないようにしましょう。

表 カキ炭疽病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
ストロビードライフフロアブル	クレソキシムメチル	収穫14日前まで	3回以内	11
オンリーワンフロアブル	テブコナゾール	収穫前日まで	3回以内	3
スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール	収穫前日まで	3回以内	3
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	収穫前日まで	6回以内	1
ナリアWDG	ピラクロストロビン ボスカリド	収穫前日まで	2回以内	11、7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。